

現物市場の更なる機能強化に向けた売買制度の見直しについて

2026年7月29日
株式会社名古屋証券取引所

I 趣旨

当取引所では、終値形成における透明性の向上を目的として、2024年11月の現物売買システム更改にあわせて、午後立会の売買立会終了時の売買においてクロージング・オークション制度を導入しました。また、多様な投資家がより良い価格で執行が可能となるような環境を整備すべく、立会市場における呼値の単位の見直しを適宜実施してきました。

今般、現物市場の更なる機能強化を図る観点から、終値形成の早期化やボラティリティの抑制等を目的として、クロージング・オークションにおいて大引けの板寄せ時刻を毎営業日ランダムに決定するランダムクローズの仕組みを導入します。また、投資家の執行コストの更なる削減等を目的として、銘柄ごとの一定期間の流動性に基つき呼値の単位を設定する制度を導入します。

II 概要

項 目	内 容	備 考
1. クロージング・オークション制度の改善(ランダムクローズ方式の導入)	- 午後立会の売買立会終了時の売買においてクロージング・オークションを実施する銘柄について、毎営業日午後3時29分30秒から午後3時30分までのランダムな時刻に大引けの板寄せを実施することとします。 - 毎営業日における板寄せ時刻は、クロージング・オークションを実施する全ての銘柄について同時となります。	現在と同様、債券及び転換社債型新株予約権付社債券はクロージング・オークションの対象外です。

項 目	内 容	備 考
	注文受付時間（プレ・クロージング）においては、大引けの板寄せ時刻まで新規注文の発注、注文値段・数量の変更又は取消しが可能です。	終値形成の更なる透明性向上の観点から、プレ・クロージングにおける予想対当値段及び予想対当数量の配信をF L E Xにて行います¹。
2. 呼値の単位の更なる適正化 (1) 流動性に応じた呼値の単位の決定	- 当取引所に上場する株券について、原則として、一定期間の流動性指標（S T R）に応じて、適用する呼値テーブルを決定します。 - E T F（売買単位が1口の銘柄を除く）については、呼値テーブルAを適用します。	- 国内の他の金融商品取引所に上場されている株券については、当該国内の他の金融商品取引所において当該株券に適用される呼値テーブルも勘案の上、決定します。 - S T R（<u>S</u>pread to <u>T</u>ick <u>R</u>atio）は、名目スプレッド（最良売気配と最良買気配の差）が、呼値の単位で何本分離れているかを示す指標です。 - 制度施行時に適用する呼値テーブルは、制度施行前のS T R等に基づき決定します。 - 呼値テーブルの詳細については、別紙を参照ください。

¹ 予想対当値段及び予想対当数量は前場及び後場寄付き前の5分間においても同様に配信を行います。

項 目	内 容	備 考
(2) 呼値の単位の定期見直し	・ 売買単位が1口の銘柄については、円未満の約定が発生しないよう専用の呼値テーブル（呼値テーブルO）を適用します。 ・ 新規上場銘柄については、原則として、呼値テーブルCを適用します。 ・ 毎年8月初に評価期間（前年8月から当年4月までの9か月間）におけるSTRの期間中央値に基づき、以下のとおり適用する呼値テーブルの定期見直しを行います。	・ 他市場経由銘柄については、当該銘柄が上場する国内の他の金融商品取引所において当該銘柄に適用されている呼値テーブルを勘案の上、当取引所が都度定めることとします。 ・ テクニカル上場銘柄については、旧銘柄（当該テクニカル上場により上場廃止となる銘柄をいう。）に適用されていた呼値テーブルを勘案の上、当取引所が都度定めることとします。 ・ 各銘柄に適用される呼値テーブルは、現在と同様、前営業日夕方のFLEX（翌日銘柄情報）でも配信を行うとともに、当取引所ウェブサイトでも公表を行います。 ・ 定期見直しの結果については、毎年6月を目途に公表します。

項 目	内 容	備 考
	➤【STR<1.5】 一段階小さい呼値テーブルへ移行 ➤【1.5≤STR≤5.0】 変更なし ➤【5.0<STR】 一段階大きい呼値テーブルへ移行	・例えば、呼値テーブルBを適用している銘柄について、評価期間におけるSTRが1.2の場合、定期見直し後は呼値テーブルAを適用します。 ・呼値テーブルAを適用している銘柄について、評価期間におけるSTRが1.5未満の場合又は呼値テーブルCを適用している銘柄について評価期間におけるSTRが5.0超の場合には、呼値テーブルの見直しは行いません。 ・評価期間中に新規上場した銘柄については、新規上場日から評価期間末日までの実績に基づいて判定します。ただし、4月以降に新規上場した銘柄については、同年8月の定期見直しの対象外とします。

Ⅲ 実施時期（予定）

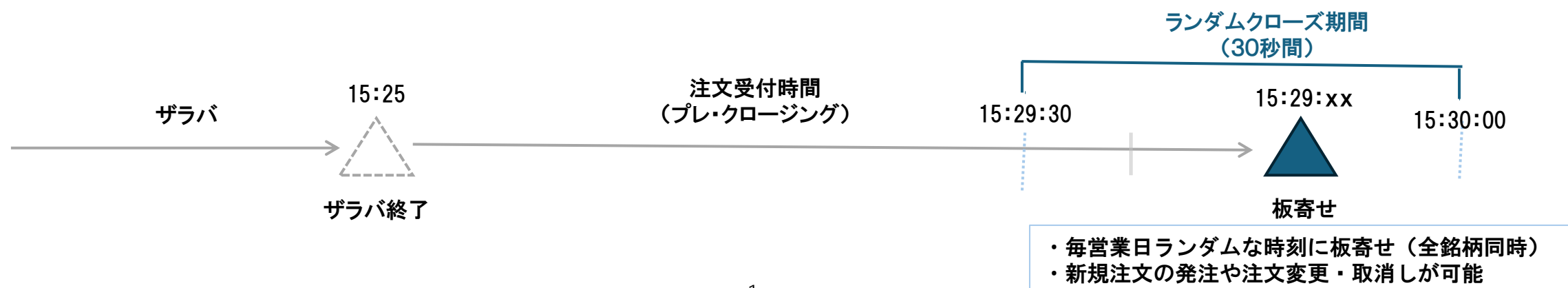
1. については2027年度第3四半期を目途に、2. については2026年度第4四半期を目途とし、当取引所及び取引参加者における対応状況等も踏まえて決定します。

以 上

(参考)クロー징・オークション制度の改善(ランダムクローズの導入)

ランダムクローズの実装イメージ

項目	概要
期間	・ 15:29:30から15:30:00までの30秒間
板寄せ時刻	・ 上述の30秒間のうち、毎営業日、ランダムクローズ期間中のランダムな時刻に板寄せを実施(大引けのみ) ・ クロー징・オークションを実施するすべての銘柄について、板寄せ時刻は同時とする
注文種類による制限	・ 注文種類による制限は行わず、大引けの板寄せ時刻まで新規注文の発注や注文値段や数量の変更・取消しが可能
予想対当値段の配信	・ プレ・クロー징において、透明性向上の観点からIEP(予想対当値段:Indicative Equilibrium Price)/IEV(予想対当数量:Indicative Equilibrium Volume)を配信



見直し後の呼値テーブル

株価					呼値の単位（呼値テーブル）			
					呼値テーブル A (Active : 超高流動性)	呼値テーブル B (Basic : 高流動性)	呼値テーブル C (Calm : 中流動性)	呼値テーブル O (One Unit : 売買単位1口)
～	100円	以下			0.1円	0.1円	0.1円	1円
100円	超	～	500円	〃	0.1円	0.1円	0.5円	1円
500円	〃	～	1,000円	〃	0.1円	0.1円	1円	1円
1,000円	〃	～	2,000円	〃	0.2円	0.5円	2円	1円
2,000円	〃	～	5,000円	〃	0.5円	1円	5円	1円
5,000円	〃	～	10,000円	〃	1円	2円	10円	1円
10,000円	〃	～	20,000円	〃	2円	5円	20円	2円
20,000円	〃	～	50,000円	〃	5円	10円	50円	5円
50,000円	〃	～	100,000円	〃	10円	20円	100円	10円
100,000円	〃	～	200,000円	〃	20円	50円	200円	20円
200,000円	〃	～	500,000円	〃	50円	100円	500円	50円
500,000円	〃	～	1,000,000円	〃	100円	200円	1,000円	100円
1,000,000円	〃	～	2,000,000円	〃	200円	500円	2,000円	200円
2,000,000円	〃	～	5,000,000円	〃	500円	1,000円	5,000円	500円
5,000,000円	〃	～	10,000,000円	〃	1,000円	2,000円	10,000円	1,000円
10,000,000円	〃	～	20,000,000円	〃	2,000円	5,000円	20,000円	2,000円
20,000,000円	〃	～	50,000,000円	〃	5,000円	10,000円	50,000円	5,000円
50,000,000円	〃	～			10,000円	20,000円	100,000円	10,000円

（参考）STRの考え方（１）

- STR(Spread to Tick Ratio)とは、名目スプレッド(最良売気配値段と最良買気配値段の差)が、呼値の単位で何本分に相当するかを示す指標であり、銘柄の流動性に対する呼値の単位の水準を把握するために用いられる

呼値の単位が適切な場合
(例：STR = 3.0)

売り	価格	買い
100	3,005	
100	3,004	
200	3,003	
400	3,002	
	3,001	
	3,000	
	2,999	400
	2,998	200
	2,997	100
	2,996	100
	2,995	100

STRの計算方法

最良売気配値段（3,002円）と最良買気配値段（2,999円）の差（3円）は、呼値の単位（1円）3本分であるため、STRは3.0となる

呼値の単位が粗すぎる場合
(例：STR = 1.0)

売り	価格	買い
400	3,005	
200	3,004	
800	3,003	
500	3,002	
1,000	3,001	
2,000	3,000	
	2,999	2,200
	2,998	1,500
	2,997	400
	2,996	800
	2,995	900

呼値の単位を細かくすることで価格改善（2,999.5円等での執行）が見込まれる

呼値の単位が細かすぎる場合
(例：STR = 6.0)

売り	価格	買い
	3,005	
200	3,004	
	3,003	
100	3,002	
	3,001	
	3,000	
	2,999	
	2,998	
	2,997	
	2,996	200
	2,995	

注文が分散して円滑な取引が出来なかったり、値動きが激しくなる恐れがある

(参考)STRの考え方について(2)

- 名証では、STRの適切な範囲を1.5から5.0と位置づけ、銘柄ごとに適用する呼値テーブル(呼値の単位)を1年ごとに見直します。

表: 評価期間におけるSTR値に対する評価及び定期見直しで適用する呼値テーブルについて

STR	1.5未満	1.5以上5.0以下	5.0超
評価 (考え方)	流動性に対して呼値の単位が粗い (より小さい呼値の単位が適切)	適切なSTR範囲 (現在の呼値の単位が適切)	流動性に対して呼値の単位が細かい (より大きい呼値の単位が適切)
呼値テーブルA	残留(呼値テーブルA)	残留(呼値テーブルA)	<u>呼値テーブルBを適用</u>
呼値テーブルB	<u>呼値テーブルAを適用</u>	残留(呼値テーブルB)	<u>呼値テーブルCを適用</u>
呼値テーブルC	<u>呼値テーブルBを適用</u>	残留(呼値テーブルC)	残留(呼値テーブルC)
呼値テーブル0	売買単位が1株(口)専用テーブルのため、STRに基づくテーブル間の移動はなし		